

お米やお魚、農産物が豊富な村上市でも、日常の生活で、食べ物に困っている人がいることを知って欲しい

「もったいない」を「ありがたい」にする

「フードバンクにご協力ください」

問い合わせ

福祉課総合相談係

☎53・2111（内線2331）

記事ID

0049981



フードバンクとは

フードバンク (food bank) とは、食品関連企業において、販売が困難になった食品や農家における規格外の農産物、家庭で余った食品などの寄附を受け、食糧支援を必要とする家庭や福祉施設などに所得などに関係なく無償で提供する社会福祉活動などを行う団体や活動のことをいいます。

市内におけるフードバンク活動

昨年6月1日と6月25日の2回、フードバンクさんぽく・フードバンクむらかみを中心として、活動の際には欠かすことができない関係8団体が集まり、フードバンク活動の勉強会と今後の取り組みにおける協力体制について、懇談会を開催しました。この関係者が中心となって「フードドライブ」に協力をいただくなど、地域と一体となった取り組みを行っています。

市内では現在、「フードバンクさんぽく」が令和2年7月に、また「フードバンクむらかみ」が同年12月に発足し、地域ごとに分担しながら希望者に食糧をお届けしています。

新潟県内では19団体(令和3年7月1日現在)が活動しており、令和2年4月以降8団体が立ち上がるなど、取り組みが活気づいています。

なんと
1.8トン!



5月17日～21日、市役所本庁・各支所で開催した「フードドライブ」に大勢の方々からご協力いただきました。

【寄附していただいた食品】

- ・米：922.8kg
- ・米以外の食品：885.4kg
- ・合計：1808.2kg

【寄附受付件数】

308件

また、県内の団体が加入する、「新潟県フードバンク連絡協議会」が令和2年4月に発足し、設立運営支援や物資支援など活動サポートが受けられるようになりました。

※関係用語

【フードドライブ】

余っている食品・食材を集め、フードバンク団体などに寄附する活動

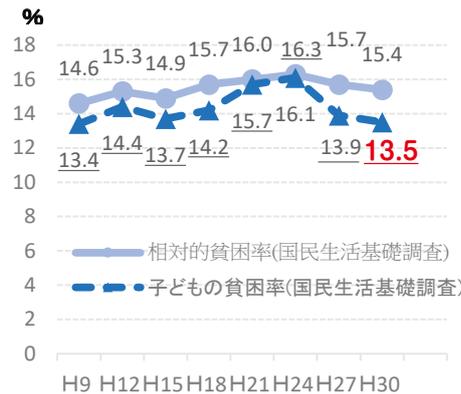
【フードパントリー】

食べ物を必要としている家庭へ集まった食材を直接配布する流れは一緒ですが、必要な人が、バンク側が準備した場所に行く方法



▲集まった寄附品を整理するスタッフ

図1. 相対的貧困率の年次推移



資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」

※相対的貧困とは、相対的貧困とは、日本の文化水準、生活水準と比較して困窮した状態を指し、世帯の所得が日本の等価可処分所得（個人が自由に処分できる所得を世帯の人数の平方根で割ったもの）の中央値の半分に満たない状態のこと。OECDの基準によると、相対的貧困の等価可処分所得は122万円以下、4人世帯で約250万円以下（2015年時点）です。

フードバンクがもたらす効果

① 福祉的な側面

日本の子どもの貧困率は13・5%と、実に子どもの7人に1人は貧困で苦しんでいる状況です（図1）。貧困の中で特に問題となるのが、食べ盛りの子どもの食事が充足されなくなることですが、その一助となるのがフードバンクです。

食糧の提供を受ける側は、食糧の提供を受けることにより、食事の量や質を減らすことなく生活をするができます。

逆に食糧を提供する側は、余った食品などを生かし、誰かの支援につなが

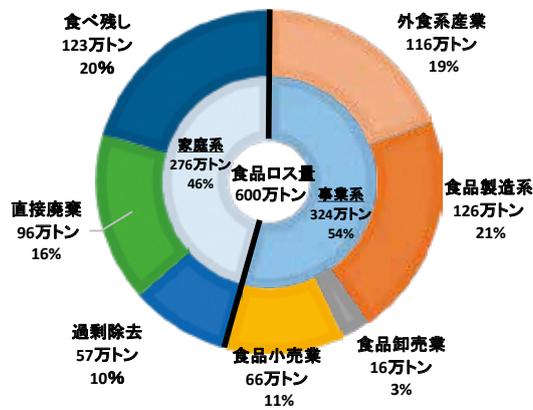
② 環境的な側面

フードバンク活動は、福祉的な活動としてだけでなく、食品ロス削減にもつながる有意義な取り組みです。

日本の食品廃棄物などは年間2531万トン、そのうち食べられるのに捨ててしまう食品（食品ロス）の量は年間600万トンと推計されており、そのうち食品関連事業者の食品ロス（規格外品、返品、売れ残りなど）が32

る福祉的活動ができます。フードバンクを介さず直接食糧を提供する場合でも効果はありますが、フードバンクを活用することで、より幅広い対象の方々に、そして対象者のニーズに対応した食糧提供をすることができます。

図2. 食品廃棄物の発生状況と割合（概念図）



資料：農林水産省および環境省「平成30年度推移」

フードバンクの仕組み



家庭や企業から余剰食品（お米、レトルト食品など）の寄附

フードバンクさんぽく・むらかみでお預かり

必要な人へお届けします

※市社会福祉協議会でも常時お預かりしています

4万トン、一般家庭の食品ロス（食べ残し、直接廃棄など）が276万トンとなっています（図2）。この食品ロスの内、少しでもフードバンクに回すことで廃棄する量が減り、廃棄物処理に伴う経費の抑制や、環境負荷（CO2）の低減に貢献できます。さらに食品を提供する企業にとって、社会福祉の向上にもつながります。企業イメージの向上にもつながります。また、税の優遇措置を受けられる場合もあります。

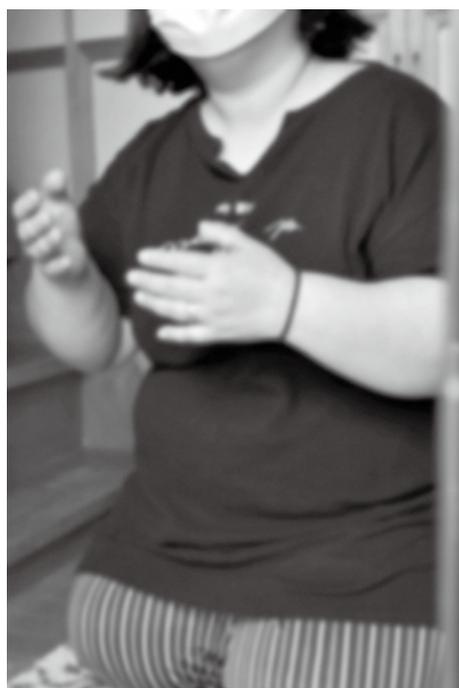
本当に助かっています

フードバンク利用者の声

コロナ禍ということもあり、これまで以上に生活が困窮していました。そんな中、フードバンクのチラシを見て、すぐの思いで連絡したところ、すぐに食品を届けていただきました。

現在は定期的に食品を届けていただき、食べ盛りの高校生もいるので、本当に助かっています。また、食品を運んでいただいたときに、「何か困っていることはないですか？」などと声をかけていただき、心までも温かくなりました。フードバンクの方々に本当に感謝しています。

まだまだ、困っている人たちがいると思います。ぜひ、フードバンクを利用してほしいです。



子3人を育てる母親

給食の無い夏休み、中には食事に困る子どもたちがいます

これからの取り組み

市が主催したフードドライブ（5月17日～21日）では、5日間で1.8トンもの食糧品などが集まり、市民の皆さんのフードドライブへの意識がかなり高いことが伺えました。

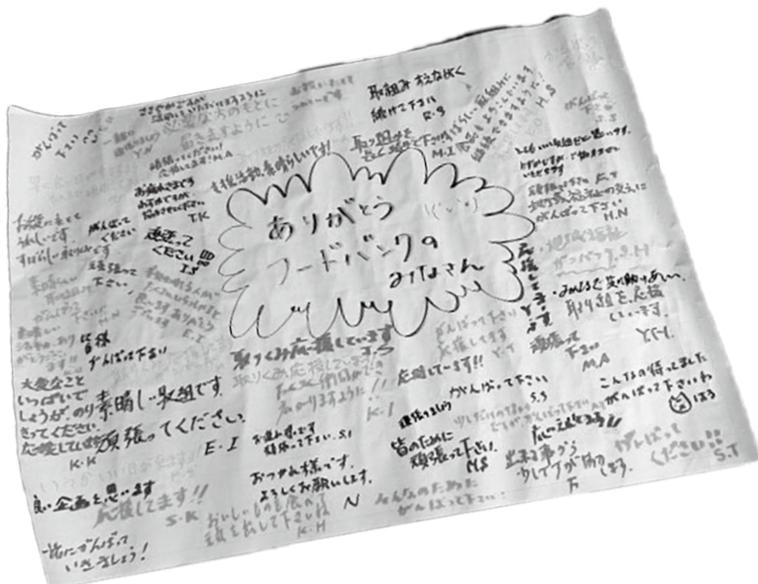
しかし、提供者は市世帯数の約1.36%の308件で、一世帯当たりの食品持ち込み量が多かったとも言え、認知度を増やせば、もっと大きな広がりとなることが予想できます。

このフードドライブ活動は、支援が必要な人々に食糧の提供をすることで社会福祉の向上や、貴重な食糧資源の有効活用につながり、また食べ物を大事にする意識や環境保全の意識が養われるなど、良い循環への活動です。市としても、フードバンク団体の活動を推進し、連携を深めることで、これまで市だけでは把握しにくかった生活困窮者の現状やニーズを知ることができ、市の各施策や関係機関につなげることができると考えています。

これまでもフードバンク活動を後押しするため、市主催のフードドライブの実施や拠点づくりに対する補助金などによる支援を行っています。団体の活動はボランティアによる運営体制となっています。今後活動は増えていくものと思われ、活動をしてみたいと思う人は、フードバンク

援団（NPO法人都岐沙羅パートナーズセンター ☎72-0663）にご登録をお願いします。

今後、多くの皆さんがこのフードバンク活動を知っていただくために、市主催のフードドライブを開催していきます。「余った食品はフードバンクに提供しよう」「食べることに困ったときにはフードバンクを利用しよう」という大きな助け合いの循環サイクルが根付いていくことを願っています。





フードバンクむらかみの皆さん

コロナ禍が長引く中、子育て世帯をはじめ、生活に困窮される家庭がさらに増えることが予想される一方で、公的支援につながっていない方々も見受けられることから、食糧を届け、生活の手助けができるフードバンク活動が必要になると考え設立しました。

月1回第4日曜日に、会員12人で手分けして、定期配達をしています。支援の申し込みは約50名となり、会員や寄附者は120人を超え、現在2.5トンのお米と2.4トンのその他の食品が集まっています。

今後は、ひとり親世帯や子育てに苦労している世帯への支援を広げていくことと、食糧品を届けるだけでは解決できない問題を抱えた世帯もあることから、公的支援や利用できる諸制度につなげていけるよう、会員向けの学習会も企画する予定です。

また、貧困が見えにくく、生活弱者が声を上げにくい状況です。フードバンクむらかみとして、市民向けの講演会や学習会を企画し、貧困問題などの理解を広げ、助け合いのまちづくりの一助を担っていきたいと考えています。

☎070-3898-5949

フードバンク応援団 募集中!

フードバンクの取り組みを応援して下さる人とつながり、村上で「食べる幸せをみんなで分かち合う」ネットワーク作りをしています。

お仕事や家事の合間に作業をお手伝い頂くことはできませんか? 農家の方は田畑で丹精込めて作られたお野菜・お米が規格外(サイズ・傷など)や収穫時期とのズレ、作物の入れ替えなどで余ることはありませんか?

少しの時間、少しの量でも構いません。応援をお願いしたいときにご連絡しますので、まずは応援団へのご登録を。ぜひ、ご協力ください。

■問い合わせ先

NPO法人都岐沙羅パートナーズセンター
☎72-0663

誰にでもできることがあります。継続的な支援をお願いします。

フードバンクさんぽく代表
工藤 いく子さん(府屋)



村上でいったいどれくらいの方がフードバンクを必要としているのか? 全く手探りの状態から始めてから1年。たくさんの方々に応援していただいております。心から感謝申し上げます。少しずつ活動の周知が進み現在53世帯の方と繋がっています。困り具合は人それぞれです。貧困は福祉分野だけの問題ではなく、多職種が連携し市全体で取り組んでいく必要があります。

私の活動の役割は「想像力を働かせ、自分の思い込みは脇に置いて興味を持って話をお聞きする」ことだと思っています。食品支援を通して子どもたちの命を守りたい! 子どもたちの未来を応援したい! 皆さん一人一人が何かできることがあります。フードバンクがそのきっかけになればうれしいです。

これからの取り組みとして

- ①イベントなどを利用してフードドライブの機会と場所を増やす。
- ②利用者の参加イベントを企画する。
- ③協力者を増やす。

食品の恒常的な確保に苦労しています。お米は今のところ安定した量のご寄附がありますが、その他の食品については、今行なっている社協や市内数カ所のフードドライブだけでは1回の配達でほぼ使い切ってしまう。新潟県フードバンク連絡協議会からの食品協力があったりようやく活動が継続できています。市役所や社協などでの定期的なフードドライブの開催や企業や団体の方々には社会貢献とフードロスの観点からぜひご協力をお願いしたいと思っています。

詳細についてはご説明に伺いますのでお問い合わせ下さい。

<https://www.facebook.com/foodbank.sanpoku>

☎080-4654-4670